

黙示録14章14-20節 「裁きの収穫」

1A 人の子による収穫 14-16

1B 白い雲の上に座す方 14

2B 刈り入れの時 15-16

2A 神の憤りの酒ぶね 17-20

1B ぶどうの刈り集め 17-18

2B 踏み場から流れ出る血 19-20

本文

黙示録 14 章を開いてください。私たちの学びは、今晚 14 節から最後までとなります。(本文全体を読む。)主イエスが、地上に戻って来られて、世界にいる者たちを裁かれる幻です。

私たちは前回、御使いが三人現れて、神の裁きを宣言するところを読みました。初めに、永遠の福音を携えています。神を畏れ、神に栄光を帰して、天と地を造られた方を礼拝せよという呼びかけです。地上にいる者たちは、自分たちに力があり、知恵があると高ぶっていました。また偶像礼拝に陥っていました。ですから、そこから神に立ち返ることが、福音の知らせだったのです。そして、二人目の御使いは、バビロンの倒壊を宣言しました。バビロンは、偶像礼拝に満ちた大きな都であり、富が集まったところ。そして三人目の御使いが、獣の国に住み、獣の像を拝む者たちが、永遠に苦しみを受けることが宣言されています。こうして、神の憤りがあることを私たちは見ました。そして、その憤りは、聖徒たちを苦しめてきた苦しみに対する報いであることを学びました。

そして今、読んだところは、主が地上に戻って来られる時に、ご自身に反抗する者たちを滅ぼされる幻です。私たちは一人ひとり、神の福音に対して責任を持っています。悔い改めて、福音を信じて救われるか、信じないで滅びるかのどちらかです。世の終わりには、福音を拒んで、拒んだ者たちが一つになって、神とキリストに反抗して集まって来ることが起こります。今、福音に反抗するのは一人ひとりが行っていますが、世が終わりに近づくにつれて、国々が、そして王たちが相集まって反抗するのです。それは、キリストこそが唯一の王であり、主権者であることを認めたくないからです。自分自身が主であり、王であり、神はいらない、キリストは要らないとしているからです。神は、忍耐して悔い改めるように待っておられますが、定めの時があり、その時が来れば、ことごとくこれらの者たちを滅ぼされます。

詩篇第二篇を読んでみましょう。全文になりますが、その預言全体が、王たるキリストに反抗する国々の姿を物語っています。

- ¹なぜ 国々は騒ぎ立ち もろもろの国民は空しいことを企むのか。
- ²なぜ 地の王たちは立ち構え 君主たちは相ともに集まるのか。主と 主に油注がれた者に対して。
- ³「さあ 彼らのかせを打ち碎き 彼らの綱を解き捨てよう。」
- ⁴天の御座に着いておられる方は笑い 主はその者どもを嘲られる。
- ⁵そのとき主は 怒りをもって彼らに告げ 激しく怒って 彼らを恐れおののかせる。
- ⁶「わたしが わたしの王を立てたのだ。わたしの聖なる山 シオンに。」
- ⁷「私は主の定めについて語ろう。主は私に言われた。『あなたはわたしの子。わたしが今日 あなたを生んだ。』
- ⁸わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与える。地の果ての果てまで あなたの所有として。
- ⁹あなたは 鉄の杖で彼らを牧し 陶器師が器を砕くように粉々にする。』」
- ¹⁰それゆえ今 王たちよ 悟れ。地をさばく者たちよ 慎め。
- ¹¹恐れつつ 主に仕えよ。おののきつつ震え 子に口づけせよ。
- ¹²主が怒り おまえたちが道で滅びないために。御怒りが すぐにも燃えようとしているからだ。幸いなことよ すべて主に身を避ける人は。

このように、終わりの日に国々が相ともに集まります。そして、主とキリストに対して齒向かいません。しかし、父なる神はあざ笑っておられます。全知全能のご自身に反抗することが、いかに愚かであるかをあざ笑っておられます。そして、ご自分の子を王に立てられるのです。シオンとは、エルサレムのことです。そして、「わたしが、今日、あなたを生んだ」と言われますが、これは赤ん坊として生まれたということではなく、キリストが死者の中からよみがえられて、確かにこの方が神の御子であることが明らかにされた、ということです。そして神の右の座に着いておられるこの方が戻って来られて、陶器師が器を砕くように粉々にされるのです。そのことに基づいて、王たちに対して、今、子に口づけせよ、つまり、ひれ伏しなさい、礼拝しなさいと促しているのです。

この戦いをしばしば、ハルマゲドンの戦いと呼びます。黙示録 16 章で、ハルマゲドンに王たちが相集まってくるということが書かれているからです。そして 19 章で主が、天から戻って来られて、戦われて、王たちをことごとく滅ぼされる姿を見ます。そして、今晚の本文では、主の再臨における神の裁きを、収穫の幻の中で表しているのです。

1A 人の子による収穫 14-16

1B 白い雲の上に座す方 14

¹⁴ また私は見た。すると見よ。白い雲が起こり、その雲の上に人の子のような方が座っておられた。その頭には金の冠、手には鋭い鎌があった。

「見よ」という言葉から、始まっていますね。幻が新たに与えられると、注意喚起をヨハネはしています。「雲の上に人の子のような方が座っておられ」る幻ですが、これは、ダニエル書 7 章に出てくるものです。「7:13 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲とともに来られた。その方は『年を経た方』のもとに進み、その前に導かれた。」雲は、神の栄光を表しています。幕屋や神殿において、栄光の雲がそこに満ちました。その雲の上にキリストが座しておられるのは、キリストが確かに、神に全権を任された方であることを示しています。イエス様はヨハネ 5 章で、「また父は、さばきを行う権威を子に与えてくださいます。子は人の子だからです。」と言われました(27 節)。

そして、雲が「白い雲」と強調されています。これは、清さを示していますね。黙示録では、聖徒たちが「白い衣」を着ている姿が出てきますが、「その衣を洗い、子羊の血で白くしたのです。」とあります(7:14)。そして主が馬に乗って来られる姿が 19 章にあります、「白い馬」に乗って来られます。この、天にある白い雲の上に座しておられる姿と、後に出てくる大淫婦バビロンとの姿を見比べると、その違いは明らかです。「大水の上に座している」とあります(17:1)。大水とは、「もろもろの民族、群衆、国民、言語です」とありますが(17:15)、いずれ、この水、海から死者が出てきますが、そこに「よみ」があることが記されています(20:13)。そして 21 章を見ると、新しい天と新しい地には、「もはや海はない」とあるのです(21:1)。大淫婦が世の姿、その汚れた姿を示しているのに対して、キリストの天におられる姿、清い姿がここにはあります。私たちは、このキリストの内に、自分のいのちが隠されているとコロサイ書にはあります(3:3)。

そして、この方には「金の冠」が頭にありました。冠には王冠と、勝利と救いをもたらした者に与えられる冠がありましたが、ここでは後者です。ローマ皇帝も、王冠ではなく、勝利によって人々に救いをもたらしたことで、選手たちが賞を受ける時と同じ、月桂樹の冠をしばしばかむりましたが、それと同じです。主が、敵に勝利し、救いをもたらしました。「金」は、神の栄光を表しています。

そして、この方が、「鋭い鎌」を持っておられます。収穫のための鎌ですが、「鋭い」というのは、その裁きが滞りなく行われること、容赦がないことを示しています。

2B 刈り入れの時 15-16

¹⁵すると、別の御使いが神殿から出て来て、雲の上に座っておられる方に大声で叫んだ。「あなたの鎌を送って、刈り取ってください。刈り入れの時が来ましたから。地の穀物は実っています。」¹⁶雲の上に座っておられる方が地上に鎌を投げると、地は刈り取られた。

私たちが、刈り取るという言葉を書く時に、魂の救いの収穫のことを思います。けれども、聖書ではそれだけでなく、悪い実を結ぶ者たちに対する裁きの時にも表れます。イエス様の語られた、天の御国の奥義の現れが、それです。マタイ 13 章です。

²⁴ イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は次のようにたとえられます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。²⁵ ところが人々が眠っている間に敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて立ち去った。²⁶ 麦が芽を出し実ったとき、毒麦も現れた。²⁷ それで、しもべたちが主人のところに来て言った。『ご主人様、畑には良い麦を蒔かれたのではなかったでしょうか。どうして毒麦が生えたのでしょうか。』²⁸ 主人は言った。『敵がしたことだ。』すると、しもべたちは言った。『それでは、私たちが行って毒麦を抜き集めましょうか。』²⁹ しかし、主人は言った。『いや。毒麦を抜き集めるうちに麦も一緒に抜き取るかもしれない。³⁰ だから、収穫まで両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時に、私は刈る者たちに、まず毒麦を集めて焼くために束にし、麦のほうは集めて私の倉に納めなさい、と言おう。』」

そして後で、弟子たちが、この喩えの意味を尋ねるのでお答えになります。

³⁷ イエスは答えられた。「良い種を蒔く人は人の子です。³⁸ 畑は世界で、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らです。³⁹ 毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫は世の終わり、刈る者は御使いたちです。⁴⁰ ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそのようになります。⁴¹ 人の子は御使いたちを遣わします。彼らは、すべてのつまずきと、不法を行う者たちを御国から取り集めて、⁴² 火の燃える炉の中に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりするのです。⁴³ そのとき、正しい人たちは彼らの父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。

このように、良い実を結ぶ者たちは、主の倉の中に入れられます。それは御国の中で、太陽のように輝く、つまり大きな報いを受けているということです。悪い実を結ぶ者たちは、燃える火の炉に投げ入れられるのです。バプテスマのヨハネもこのことを話しました。彼は聖霊のバプテスマだけでなく、火によるバプテスマも語りました。それは、神の裁きのバプテスマです。「マタ 3:11-12 私はあなたがたに、悔い改めのバプテスマを水で授けていますが、私の後に来られる方は私よりも力のある方です。私には、その方の履き物を脱がせて差し上げる資格もありません。その方は聖霊と火であなたがたにバプテスマを授けられます。12 また手に箕を持って、ご自分の脱穀場を隅々まで掃ききよめられます。麦を集めて倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」

私たちの内に、神のことばが蒔かれて、それが良い土地に落ちれば、良い実を結ばせます。けれども、悪魔も同じように種を持っていて、それが、まだ主のみことばを受け入れていない者たちの心に蒔かれて、それが毒麦をもたらすこととなります。これが、明かになるのは終わりの日です。まだ明らかにならないうちは、主はそのままとしておきなさいと言われます。私たちも、主が来られるまでは、早まった判断をしてはいけません。主が裁かれるのです。しかし、次第に明らかになっていき、そして、誰が見てもこれは不法である、つまずきであると分かった時に、主は裁かれます。

その証拠に、御使いは「地の穀物は実っています。」と言っています。この直訳は、「実はかわいた」となっています。つまり、実って、実り過ぎて、水気を失い乾き始めた、ということです。主はここまで待って、悪者たちにも悔い改めるよう時間を延ばしておられました。もう実がかわくほどになっているので、今刈り取りを行なわれるのです。忍耐して待っておられて、そして、あまりにもその実が明らかにされているところで、それで裁かれています。

パウロは、テモテに対して指導者に対する訴えについて、どうすればよいかの指示を第一の手紙の中で与えています。そのような、腹が痛くなるような厳しい判断をしなければならない時に、パウロはテモテにこう励ましました。「5:24-25 ある人たちの罪は、さばきを受ける前から明らかですが、ほかの人たちの罪は後で明らかになります。同じように、良い行いも明らかですが、そうでない場合でも、隠れたままではあることはありません。」今、隠れていることがあっても、隠れたままになっていることはない、ということです。ですから、忍耐すること、誠実さを保つことが大事です。そして私たち自身も、心の中に、高慢の罪がないか、悪いものがないかを確認することが大事です。

2A 神の憤りの酒ぶね 17-20

1B ぶどうの刈り集め 17-18

¹⁷ それから、もう一人の御使いが天の神殿から出て来たが、彼もまた、鋭い鎌を持っていた。¹⁸ すると、火をつかさどる権威を持つ別の御使いが祭壇から出て来て、鋭い鎌を持つ御使いに大声で呼びかけた。「あなたの鋭い鎌を送って、地のぶどうの房を刈り集めよ。ぶどうはすでに熟している。」

天において神殿があります。主なる神が座しておられる神殿です。そこに仕えている御使いの一人が、イエス様と同じように鋭い鎌を持っていました。そして、「火をつかさどる権威を持つ別の御使い」が出て来ています。神殿の中に、その外には祭壇がありますね。それは火でいけにえを焼くところであり、そこでは神の裁きを表しています。ですから、火をつかさどる権威を持っています。

そして、再び、刈り集めるように呼びかけています。今度は、「ぶどうの房」の刈り集めです。先ほどは、大麦とか小麦の刈り集めだったと思います。穀物が乾いているからです。ここは、ぶどうの房です。そして、時がもう満ちていることを、「すでに熟している」という言葉で言い表しています。熟しすぎて、はちきれんばかりになっている、ぶどうです。主は、そこまで忍耐して待っておられたのです。私たちは、しばしば、主の裁きを聞くと、主は恐ろしい方だと思います。確かに、悪を行う者たちに対して容赦ない裁きを行われます。けれども、その前に主は憐れみ深い方で、忍耐に富んだ方なのだということを知らないといけません。悔い改めることを待っておられるのです。

2B 踏み場から流れ出る血 19-20

¹⁹ 御使いは地上に鎌を投げて、地のぶどうを刈り集め、神の憤りの大きな踏み場に投げ入れた。

ぶどうの実を収穫して、それを酒ぶねの中に入れて、それからぶどうの汁を取ることは、イスラエルの中ではありふれた光景でした。今もイスラエルに行けば、いたるところに、酒ぶねの遺跡が残っています。平らな岩のところ、かさのとても浅い風呂のように削って、その平らなところで、足踏みをして汁を出します。種が潰れると汁に苦みが入ってしまうので、それなりの体重の人でないとな上手に踏めないのだそうです。若い女性がそれで好まれます。男だと、体が重すぎて種も潰してしまうからです。主は、そういった光景を用いられて、その足踏みする姿を、ご自身が彼らと戦われて、踏み潰されることを表わしておられます。

²⁰ 都の外にあるその踏み場でぶどうが踏まれた。すると、血がその踏み場から流れ出て、馬のくつわの高さに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。

主が、「都の外」で国々を裁かれます。そして血が流れ出ます。これだけを読むと、よくわからないと思います。この姿は、ヨエルの預言の中に語られていました。「3:12-14 諸国の民は立ち上がり、ヨシャファテの谷に上って来い。わたしがそこで、周辺のすべての国々をさばくために、座に着くからだ。」13 鎌を入れよ。刈り入れの機は熟した。来て、踏め。踏み場は満ちた。石がめはあふれている。彼らの悪がひどいから。14 判決の谷には、群衆また群衆。【主】の日が判決の谷に近づくからだ。」主が戻って来られる時、主は、エルサレムの御座に着かれます。その時に、ヨシャファテの谷で、裁かれるとあります。ヨシャファテの谷とは、神殿のあるモリヤ山と、東のオリーブ山の間にある、ケデロン谷の部分です。



主が戦われて、彼らが殺されて、それで血が流れていくのですが、それが「馬のくつわの高さに届くほど」になり、そして、なんと「千六百スタディオン」にまで及びます。296キ。非常に生々しい光景ですが、主が、諸国の軍隊を倒されることは、旧約聖書の預言書に、また黙示録 19 章に詳しく描かれています。

この距離は、イザヤ書の預言から何を意味しているかを推測することができます。イザヤ書 63 章をお開きください。1 節から 6 節までを読みます。「1 「エドムから来るこの方はだれだろう。ボツラから深紅の衣を着て来る方は。その装いには威光があり、大いなる力をもって進んで来る。」 「わたしは正義をもって語り、救いをもたらす大いなる者。」2 「なぜ、あなたの装いは赤く、衣はぶどう踏みをする者のようなのですか。」3 「わたしはひとりでぶどう踏みをした。諸国の民のうちで、事をもにする者はだれもいなかった。わたしは怒って彼らを踏み、憤って彼らを踏みにじった。彼らの血の滴りはわたしの衣にはねかかり、わたしの装いをすっかり汚してしまった。4 復讐の日がわたしの心のうちにあり、わたしの贖いの年が来たからだ。5 見回しても、助ける者はだれもなく、

支える者がだれもないことに呆然とした。それで、わたしの腕がわたしの救いとなり、わたしの憤り、それがわたしの支えとなった。6 わたしは怒って諸国の民を踏みつけ、わたしの憤りをもって彼らを酔わせ、彼らの血の滴りを地に流れさせた。」』

これまでも、学んできたように、イエス様が再臨される時に、まず、荒野に逃げていて、ボツラに逃げている、イスラエルの残りの民を救われます。その時に、彼らを滅ぼそうとして集まって来た諸国の軍隊と戦われます。そして、そのボツラから、ハルマゲドン、つまりイズレエル平野にあるメギドまでが、おおよそ 300 キロメートルなわけです。ハルマゲドンに集結した軍隊がボツラに行く時に主が戻って来られて、それで彼らが倒れる領域がこれだけ広範囲になり、そしてイエス様が残りの軍隊をヨシヤファテの谷で裁かれて、それで血が溢れに溢れるということなのではないでしょうか。黙示録 19 章では、神の大宴会が行われて、そこで猛禽が死んだ兵士たちの肉を食っていく凄惨な姿があります。イエス様も、「ルカ 17:37 死体のあるところ、そこには秃鷹が集まります。」と言われました。他の解釈では、イスラエルの北の端ダンから、南の端ベエル・シェバまでも約 300 キロメートルらしいのですが、いずれにしても、エルサレムを取り囲む広範囲な全域ということなのです。

このようにして、主は戦われる方です。今、ロシアがウクライナで侵略戦争をしていますが、こういったこともすべて、主が正しい裁きを行われます。主が最終的に戦われて、人々の反抗そのものをやめさせます。そして永遠の平和をもたらしてくださるのです。それまでは、争いは続きます。けれども、平和の君であられる主が必ず戦って、人の反抗を終わらせてくださるのです。